

令和6年度の施策別事業実績と評価等（事業別）

【基本施策1】 子どもがスポーツに親しむ機会の充実

			所属名	スポーツ振興課	
事業No.	事業名				
1	【重点事業】子どもを対象としたスポーツ事業の実施				
事業概要	①各体育館等において、子どもや親子が参加できるスポーツ事業（一般公開、教室・講習会、交流機会など）を開催する。 ②「子どもサポートプラン」を実施し、区立プールを中学生以下の子どもに対して無料で開放をする。				
計画目標	拡充	目標に対する評価	B:計画目標を達成した	コロナ影響	無
令和6年度実績	①各体育館等 駒場体育館 16,014人、区民センター体育館 42,935人、碑文谷体育館 13,241人、中央体育館 18,623人、八雲体育館 5,496人、宮前公園庭球場 18人、砧野球場・サッカー場 922名、五本木小学校屋内プール 9,429人、碑小学校屋内プール 11,719人、緑ヶ丘小学校屋内プール 11,909人 ②子どもサポートプラン 駒場体育館 1,481人、区民センター体育館 3,685人、五本木小学校屋内プール 1,761人、碑小学校屋内プール 2,617人、緑ヶ丘小学校屋内プール 2,405人				
評価の理由	親子での参加がよりしやすいように保育付きの教室の実施や、教室事業の対象年齢の設定を広げるなど、より多くの親子や子どもが参加できるよう各施設で工夫しながら、一般公開、教室・講習会等を適切に継続して実施した。				
課題など	関係団体と協力して内容の充実及び日程の調整を行い、多くの区民が教室・講習会に参加できるよう検討を継続していく。				

			所属名	スポーツ振興課		
事業No.	事業名					
2	スポーツ観戦事業の実施					
事業概要	スポーツの感動や応援するきっかけとなるよう、トップアスリートの競技を観戦する。					
計画目標	新規	目標に対する評価	B:計画目標を 達成した		コロナ影響	無
令和6年度 実績	トップアスリート競技観戦事業観戦種目及び参加者数 ・テニス 30人 ・車いすバスケットボール 26人					
評価の理由	コロナ以前の規模に戻りつつある。					
課題など	特になし					

所属名

放課後子ども対策課（児童館）

事業No.	事業名				
3	ティーンズフェスティンめぐろ				
事業概要	中高生の視点で文化的イベント・スポーツ的イベント等の企画、大人たちと世代を超えた交流を図り、中高生の社会参加と地域の活性化を図る。				
計画目標	継続	目標に対する評価	B:計画目標を達成した	コロナ影響	無
令和6年度実績	<p>令和6年11月20日から令和7年1月31日の期間に、中高生の参画を目指したイベントを企画。各館開催型または合同企画（区民センター体育館でのバレーボール大会、ドッジボール大会）を実施した。</p> <p>ティーンズ・フェスタ・イン・めぐろの共通のチラシを作成し、来館者への配布や掲示をするとともに区内の中学校・高等学校などへ配布した。また、目黒区公式X、公式LINEからティーンズ・フェスタ・イン・めぐろのイベント情報を配信し、開催のPRを強化した。</p>				
評価の理由	<p>区民センター体育館での合同イベント（バレーボール大会、ドッジボール大会）は、午前・午後のそれぞれ、中高生からの要望に沿った形で大会を実施した。担当館でスタッフを募り、スタッフミーティングを実施し、事前の交流ができた。当日も中高生がスタッフとして運営をしたりすることができた。各館のイベントだけではなく合同開催もあることで、他校の中高生との関わりが生まれて地域のネットワークが広がった。各館イベントに他館の中高生が、参画するケースもあった。日常利用する地域の中高生との関わりを積み重ねていく事の大切さを改めて認識する事に繋がった。</p>				
課題など	<p>子ども総合計画「II-(3)-12児童館における中高生の居場所の拡大」に基づき、ティーンズ・フェスタを実施する。日常の利用にも繋がる事を目指し、取り組み方については、中高生と一緒に作っていく「中高生の参画」の形を大切に、各館の中高生が参画しやすい形で、各館開催型と合同企画の開催を目指す。</p>				

			所属名	学校運営課		
事業No.	事業名					
4	めぐろ元気あっぷ教室の実施					
事業概要	肥満や体力不足など健康に課題のある児童を対象とした運動教室をめぐろ学校サポートセンター・区内小学校等で年間3期に分けて実施する。学校において児童観察している学校健康トレーナーが主体となって、児童に合わせた運動プログラムや生活プログラムを提供する。					
計画目標	継続	目標に対する評価	B:計画目標を達成した		コロナ影響	無
令和6年度実績	・めぐろ元気あっぷ教室 会場：めぐろ学校サポートセンター、八雲小学校、碑小学校、中目黒小学校、五本木小学校 参加者：前期 延べ1,070人、後期 延べ1,157人 実施数：11コース各12回 ・夏季水中運動教室 期間：4日間 参加者：延べ118人 ・ワクワク特別講座 期間：1日 参加者：親子合わせて159人					
評価の理由	各学校に健康トレーナーが巡回することにより、健康課題のある児童を把握することで「めぐろ元気あっぷ教室」の指導カリキュラムも充実できている。また、健康ミニ講話や自宅で取り組める運動プログラムの提供を行うことで、児童の健康課題の改善に繋げることができた。					
課題など	「めぐろ元気あっぷ教室」の参加児童数については、コースにより人数に偏りが生じることがあるため、状況に応じたコース設定をしていく必要がある。					

		所属名	教育指導課		
事業No.	事業名				
5	東京駅伝開催に係る支援				
事業概要	東京都教育委員会主催の中学生「東京駅伝」大会に、目黒区の中学生を代表して出場し他区市の生徒と競い合うことで、生徒の競争力及び体力の向上を図りつつ、スポーツそのものや自らの体力について考える機会を設ける。				
計画目標	継続	目標に対する評価			コロナ影響
令和6年度実績	令和2年度で事業終了予定だったため、令和元年度の東京駅伝への支援をもって本事業は終了となった。				
評価の理由					
課題など					

			所属名	教育指導課		
事業No.	事業名					
6	学校における体育活動の充実 ①めぐろ子どもスポーツ健康手帳等の作成・配付 ②体力テストの実施					
事業概要	①子どもを取り巻く社会・家庭環境の変化に伴う基本的な生活習慣の変化を意識しつつ、健康教育を進めていくことが求められる中、子ども自身が自分の健康状態や体力を認識し、目標をもった取り組みに資する教材・資料を提供する。 ②体育の時間や体育的行事を通じ、生涯にわたり運動に親しむ態度を育てるとともに、体力テストにより子どもの体力や運動能力の課題を明らかにし、指導方法の改善に努める。					
計画目標	継続	目標に対する評価	B:計画目標を 達成した		コロナ影響	無
令和6年度 実績	①令和4年度、体力向上推進委員会において作成した「めぐろ ここカラダシート」を改訂して全校・園で実施した。 ②令和6年度全校体力テストを実施し、子どもが楽しく継続的に取り組むための指導方法の改善を図った。					
評価の理由	・「めぐろ ここカラダシート」を各学校に配付し、子どもたちが食事、運動、睡眠といった健康維持に必要な三要素の視点から目標を決め、記録を付けながら、自身の健康状態に気付き、見直していけるようにしている。また、6月・10月・1月の年間3回を「めぐろ ここカラダ月間」として、子どもたちが自身の状況を確認する取組を実施している。 ・10月の「めぐろ ここカラダ月間」に、各学校は、体力テストの結果を分析した上で、任意の1週間を設定し、「めぐろ ここカラダシート」等を活用し、健康の保持増進を図っている。					
課題など	令和6年度から、小学校及び中学校全学年を対象にした体力テスト結果は、学習用情報端末から入力できるシステムとなり、入力された結果は即座に分析されるようになった。今後も引き続き本システムの活用事例を紹介し、児童・生徒が自身の体力の現状を把握し、運動への意欲を高められるようにしていきたい。					

		所属名	学校運営課			
事業No.	事業名					
7	運動部の部活動(小学校の特設クラブを含む。)における外部指導員等に係る支援の実施					
事業概要	児童・生徒が自らの適性や興味・関心を伸ばし、体力の向上やスポーツを愛好する心を育む機会となる部活動の一層の活性化のため、教育の指導を補完する外部指導員等の確保と有効活用による質の高い指導の充実を図るとともに、大会参加等の公費負担による支援を行う。					
計画目標	継続	目標に対する評価	B:計画目標を達成した		コロナ影響	無
令和6年度実績	<p>部活動数(運動部のみ)：小学校1校1部、中学校9校75部</p> <p>経費支出：試合参加児童・生徒旅費支出、試合参加費分担金支出、 外部指導員等謝礼支出、部活動合宿参加経費支出</p> <p>運動部指導員配置：部活動指導員27人、外部指導員42人</p> <p>外部指導員全体研修会参加実績(運動部のみ)…春季実施27人(対面講義方式・大学講師)、 秋季実施60人(インターネット・DVDによる映像研修)</p>					
評価の理由	<p>部活動指導員等、外部指導者の配置を希望する学校に対して配置した。</p> <p>また、外部指導者の質の向上を図ることを目的に年2回の全体研修を計画どおり実施した。開催方法については、インターネット等を活用した映像視聴での研修と、対面講義での研修を実施し、各開催方式共に受講者の評価は概ね良好であった。</p>					
課題など	<p>外部指導者の活用の推進に当たっては、部活動の地域連携・地域移行等を考慮しつつ、学校、関係部署とも連携のうえ対応する必要がある。</p> <p>外部指導者を対象とした研修については、多様化するニーズをいかに把握し、資質向上に向けた満足度の高い研修機会を設けていくことが必要となっている。</p>					